

令和5年度
個別学力検査(後期日程)

【情報学群 知識情報・図書館学類】

区 分	
小論文	<p>問題 1</p> <p>問 1</p> <p><出題意図> 文章を理解してまとめる表現力をみる。</p> <p><解答例> データの代表値を把握するために平均値、最頻値、中央値などを算出する。次にデータのばらつきや分布の広がり具合を把握するために標準偏差などを算出することで、データの全体像を把握することが大切である。(97字)</p> <p>問 2</p> <p><出題意図> 文章を理解してまとめる表現力をみる。</p> <p><解答例> インターネットを用いたサンプル調査の回答者は、インターネットを日ごろよく利用している人という前提になるため、年齢層や男女比率に偏りがあり、典型的な人たちではない可能性がある点に注意が必要である。(97字)</p> <p>問 3</p> <p><出題意図> 文章を理解した上で、異なる文脈へ応用する発想力をみる。</p> <p><解答例> (1) 327 万円 $(4372 \times 1) + (595 \times 2) + (404 \times 3) + (236 \times 1) + (209 \times 3) + (158 \times 4) + (131 \times 2) + (92 \times 14) = 9819$</p>

$$9819 \div 30 = 327.3$$

(2) 平均給与額より高い給与を得ている人は 6 人しかおらず、多くの従業員は平均以下の給与額になっているため、実態とかけ離れた印象を与えるという問題点がある。(74 字)

問 4

<出題意図>

文章の理解をふまえた論理的思考力をみる。

<解答例>

1990 年 : (A)、2000 年 : (B)、2022 年 : (C)

表に示された平均気温の平均値に大きな差がないことが分かる。一方、最高気温の標準偏差の値が一番大きい 2022 年に対応するグラフは、最高気温のヒストグラムと箱ひげ図から C に決定できる。また、最低気温と最高気温を描いた散布図の分布が大きいことから、2022 年の標準偏差の値が最も大きいことと一致する。次に、最低気温の標準偏差の値が小さい 2000 年に対応するグラフは、最低気温の箱ひげ図や散布図から 1990 年と比べて B と判断できる。よって 1990 年に対応するグラフは A になる。

問題 2

問 1

<出題意図>

文章を理解してまとめる表現力をみる。

<解答例>

大陸はかつてひとつであったという仮説の正しさを、2 億年前に大陸が移動し始めたという大陸移動説を使って示すと誓った。(57 字)

問 2

<出題意図>

文章を時系列に理解して、構造的に説明する論理的思考力および表現力をみる。

<解答例>

Wegener は 1915 年に出版した本において大陸移動説を提唱した。それを聞いた科学界は大騒ぎとなり、地質学者としての訓練を受けていない Wegener を非難した。彼女らが大陸移動説を受け入れなかった理由として、大陸を動かすほどの大きな力の証拠が提示されなかったことがあげられる。しかし Wegener の死後、大西洋に海底山脈が見つかり、大陸移動説を支持する根拠と考えられるようになった。(192 字)

問 3

<出題意図>

文章を理解した上で、一般化したアイデアを提案し説明する表現力をみる。

<解答例>

新しい理論が社会に受け入れられるために最も重要なことは、明確な証拠を示すことである。そのためには、仮説を立て、複数環境においてデータを収集分析し、理論の正しさを検証することを提案する。(92 字)

問 4

<出題意図>

文章を理解した上で、因果関係を説明する論理的思考力および表現力をみる。

<解答例>

地球の外殻は大きくて硬いプレートで構成されており、その下にある岩石は、途方もない熱と圧力にさらされているため液体のように振舞う。プレートは液体状の岩石の上に浮いているため少しずつ移動しており、大陸や海底を動かすほどの大きな力を発生させている。(121 字)